

平成 15 年度試験研究成果

区分	普及	題名	「いわてっこ」の期待生育量と栽培法（一部改定）			
<p>[要約] 「いわてっこ」の期待生育量と栽培法について平成 13 年度以降のデータを考慮して改定した。内陸は籾数 27～33 千粒/m²、稈長は 75～85cm、登熟歩合 85%以上、県北・沿岸は籾数 23～30 千粒/m²、稈長 75～80cm、登熟歩合 85%以上である。基肥窒素量はたかねみのりより減肥又は、あきたこまち並みとし、追肥は幼穂形成期とする。</p>						
キーワード	いわてっこ	期待生育量	栽培法	県北農業研究所 農産部	営農技術研究室 やませ利用研究室 水田作研究室	

1. 背景とねらい

「いわてっこ」は平成13年度に奨励品種として採用され、平成15年度から本格的な作付けがなされているが、安定栽培のための生育栄養診断基準と栽培法が求められている。平成13年度には、期待生育量と栽培法の暫定的な指標を示したが、その後のデータを考慮し、倒伏と登熟歩合の面から期待生育量と栽培法の改定を行った。

2. 成果の内容

(1) 期待生育量 (図 1～7)

	収量水準 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	一穂籾数 (粒)	籾数 (千粒/m ²)	玄米千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	稈長 (cm)
内陸	550～600	420～500	62～69	27～33	22.5～23.5	85%以上	75～85
県北・沿岸	450～550	390～480	58～65	23～30	22.5～23.5	85%以上	75～80
(参考)H13 指標	500～550	420～500	65	27～33	22.7	80～90	75～85

*収量水準及び玄米千粒重は 1.9mm 篩の数値

**内陸は岩手地域以南、県北は二戸地域、沿岸は久慈、宮古地域

(2) 栽培法 (図 8～10)

基肥窒素量	追肥時期	栽植密度
たかねみのりより減肥 又はあきたこまち並み	幼穂形成期追肥 を基本とする	約 22 株/m ²

3. 成果活用上の留意事項

- (1) たかねみのりよりも茎数が増加しやすいことから、基肥窒素量はたかねみのりより2割程度減肥する。
- (2) 減数分裂期追肥では、玄米粗タンパクが高まる (図9) ので、追肥は幼穂形成期を基本とし、倒伏を避けるため施肥量は窒素成分で2kg/10aを上限とする。
- (3) たかねみのりよりも葉色は淡い傾向にあるため、基準に従って追肥の要否を判断すること。
- (4) 生育栄養診断基準は、平成15年度試験研究成果「「いわてっこ」の生育栄養診断基準」を参照のこと。

4. 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者
県北・県央地域の「いわてっこ」栽培適地
- (2) 期待する活用効果
「いわてっこ」の安定生産

5. 当該事項に係る試験研究課題

- (343) 水稻の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立 (S47～H15、県単)
- (343) (2300) 「いわてっこの生育栄養診断指標」 (H13～H15、県単)

6. 参考文献・資料

- (1) 平成5年度 指導上の参考事項「「あきたこまち」の生育栄養診断基準と栽培法(一部改定)」
- (2) 平成6年度 指導上の参考事項「水稻品種「かけはし」の栽培法と生育・栄養診断基準」
- (3) 平成 13 年度 試験研究成果「水稻オリジナル品種「いわてっこ」の栽培法」

7 試験結果の概要

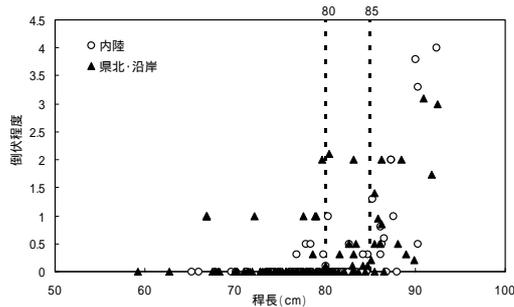


図1 穂長と倒伏程度の関係
*倒伏程度は0:無倒伏～5:完全倒伏の6段階
圃場全体の倒伏程度は倒伏程度×倒伏程度ごとの面積比率で示す。

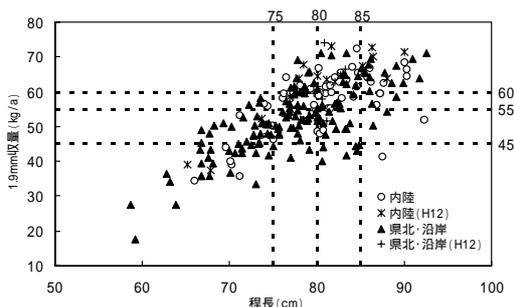


図2 穂長と1.9mm収量の関係

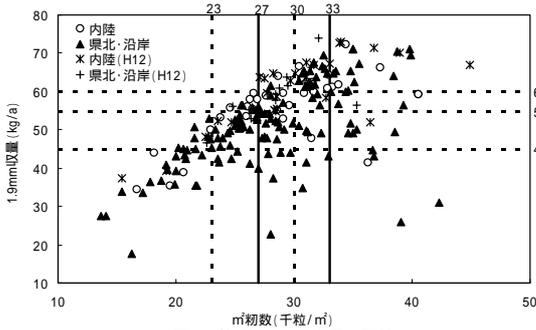


図3 m²初数と1.9mm収量の関係

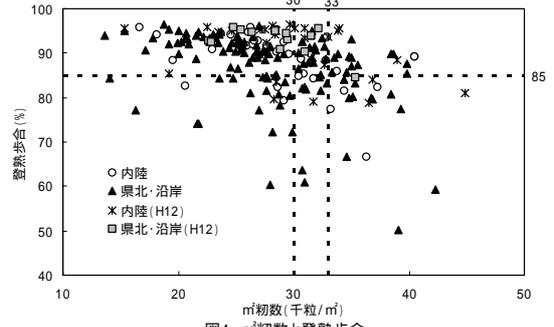


図4 m²初数と登熟歩合

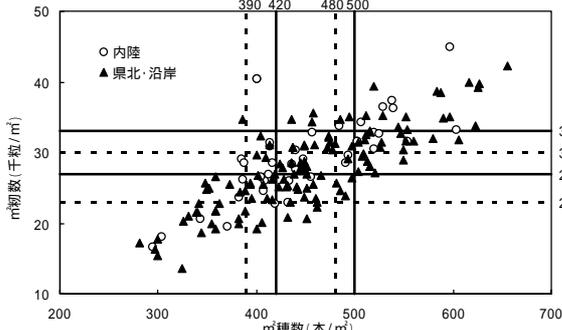


図5 m²穂数とm²初数の関係

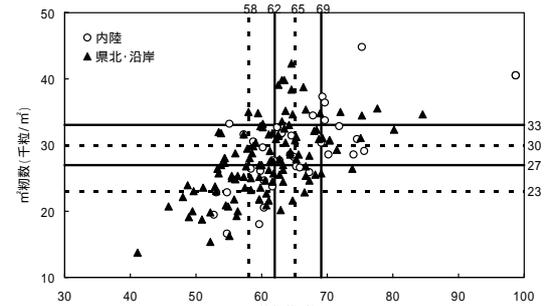


図6 一穂初数とm²初数の関係

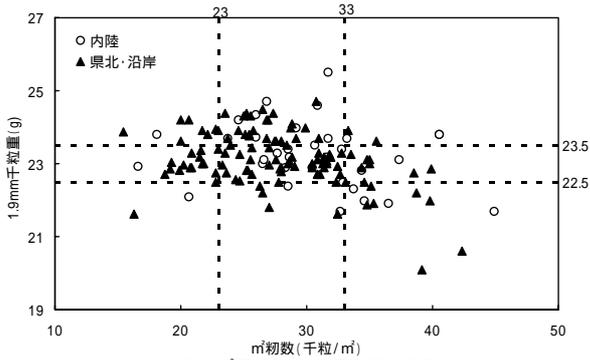


図7 m²初数と1.9mm千粒重の関係

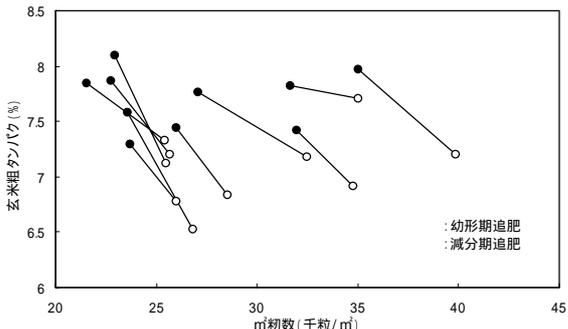


図9 追肥時期別m²初数と玄米粗タンパクの関係

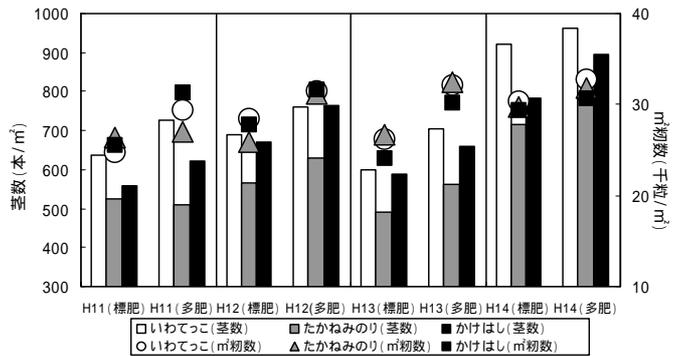


図8 品種別7月上旬茎数とm²初数 (H12～H14、軽米)
*東北研究所、奨決、施肥条件は標肥: 基肥6kg+追肥2kg=8kg/10a、
多肥: 基肥8kg+追肥3kg=11kg/10a、追肥は幼穂形成期追肥

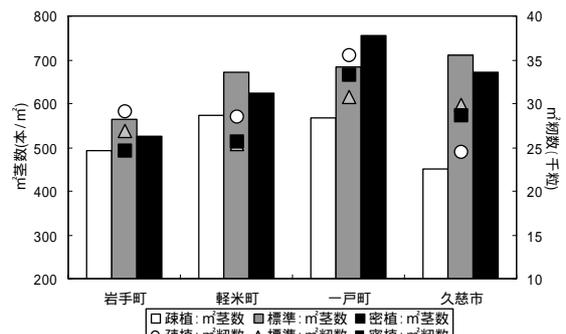


図10 6月下旬茎数とm²初数 (H14)
疎植: 16.7株/m²、標準: 22.2株/m²、密植: 26.7株/m²
基肥窒素量 6kg/10a 幼穂形成期追肥 2kg/10a